

たくお
ごうはら拓男

G O U H A R A T A K U O

県政通信 No.18



～ 令和5年第4回定例会を終えて～

皆様方におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。今回 17 回目の一般質問に臨ませて頂きました。

かごしま国体では、目標としていた天皇杯・皇后杯の獲得には一歩及びみせんでしたが、自転車競技やボクシング、剣道や体操など 17 競技 30 種目での優勝をはじめ 33 競技 174 種目で入賞を果たすなど、日頃の鍛錬の成果を十分発揮していただき、男女総合成績第 2 位、女子総合成績第 2 位というすばらしい成績でした。

また、かごしま大会では、過去最高の 196 個のメダルを獲得するなど、選手が持てる力を存分に発揮されました。大きな夢と感動を与えてくれた選手一人一人の健闘に心より感謝申し上げます。令和5年第4回定例会が 11 月 28 日から 12 月 19 日まで 22 日間の日程で開催され県政報告を取りまとめました。ご高覧頂けましたら幸いです。

【一般質問通告】

1 教育行政について

- ① 魅力ある県立高校づくり ②教育委員会制度の意義

1 観光行政について

- ① ラーケーション ② 鹿児島県人世界大会

1 保健福祉行政について

- ① 少子化対策 ② 農福連携 ③ノーリフトケア
④県介護福祉士修学資金対象者の拡大

1 土木行政について

- ① 錦江湾横断交通 ②寿大通線 ③祓川バイパス ④県道鹿屋環状線野里地区



【一般質問録画】

【魅力ある県立高校づくり】

郷原

募集定員に対する生徒充足率は、公立学校が76%であるのに対し、私立学校が約95%（入学定員4,925/募集定員5,190人/学則定員5,775人）を誇り、また生徒数の公私間比率が昭和51年に公立4:私立1であったのが、20年前は公立3:私立1、現在は公立2:私立1と縮まっています。現在の本県の出生数は約10,000人。私立学校の募集定員は5,190人であるので、このままの推移でいけば、今年誕生した赤ん坊が高校生になる、15年後には、公私間比率が公立1:私立1になるのではないかと、思います。公私相携えた教育の質の向上図っていく上で、私は今こそ「魅力ある県立高校づくりプロジェクト」の本気度が試されている、と思います。



ツールドおおすみBコース完走

【ラーケーション】

これまで多くの観光関連の有識者からも「休日の平準化の重要性」が訴えられてきました。国では平成30年度から「キッズウィーク」を開始し、本年9月には、愛知県で「休み方改革プロジェクト」が発表され、ラーニング（learning）しながら休暇（vacation）する、いわゆる「ラーケーション」が始まりました。

平日であっても、保護者等の休みに合わせて子供が欠席扱いされずに、保護者と共に校外学習活動が行われる「ラーケーション」は、今年度から導入された取り組みであり、観光の振興につながるかどうかについて、鹿児島県でも充分見極める必要があると考えている、との答弁でした。

教育長

令和5年度の公立高校入試における、本県高校出願倍率0.81倍であり、定員内不合格者数は第1次選抜・第2次選抜あわせて63人。全国で同様に倍率が1倍を下回ったのは20道県。県教委はこれまで生徒減少に対して、再編統合や募集定員の削減で対応してきたが、一学年3学級以下の小規模校が約半数となっており、このような小規模校は離島や通学手段が限られた中山間地域に多く、近年地域振興の核としての役割も期待されている。子供たちの学びの機会の確保という観点からも更なる募集定員の削減には慎重に対応しており、結果的に出願倍率の低下が進んでいる。

小規模校は生徒と教師の距離が近く、よりきめ細やかな指導を受けることができるなどの魅力がある一方、教員数や学校施設などの教育資源に限りがあり、生徒の多様なニーズのすべてに一つの学校で対応することが難しいという課題もある。県教委では、生徒がどの高校に進学してもそれぞれの夢に向かって希望を持ち進路目標に応じて学びたいことを学びながら、充実した学校生活を送れるような高校づくりを進めることが大切だと考えており、現在『魅力ある県立高校づくりプロジェクト』として、複数の小規模校が合同で行事などを行うためのサポートや、普通科改革としての新学科設置など、これまでにない取り組みを進めて魅力化を図っている。



垂水カンパチフェス(子供は睡眠)

【農福連携】

農業における労働力の確保や障害者の賃金等の向上など農業・福祉両分野にとって利点がある農福連携の取組を全県的に広げていくことが、県政の重要課題だとして、政策立案推進検討委員会によるとりまとめ後、令和4年12月に知事に提言されました。鹿児島中央駅で「農福マルシェ」が開催されたり、11月下旬には、「大隅半島ノウフコンソーシアム」が、フランスより有識者をお招きした取り組みを行うなど、本県各地にその広がりが見られています。しかし、一般社団法人日本基金の調査によると、農福連携の取り組みを「知らない」消費者が8割に上るなど、農福連携の普及や啓発は、大きな課題です。

【ノーリフトケア】

『鹿児島すこやか長寿プラン2021』によると、本県の令和7年の福祉・介護人材不足は約2200人、令和22年には約4,000人にのぼる見込みです。福祉機器の導入やDX化、外国人材の登用など、本県でも様々な切り口から介護の魅力向上が図られていますが、ノーリフトケアの推進も、介護の魅力を向上させる有力な考え方の一つだと思います。

県でも、介護職員の負担軽減、介護サービスの質の向上や人材の確保にもつながると考えており、次期計画でも引き続きノーリフトケアについて記載すると共に、普及促進を図っていきたい、との答弁でした。

【道路整備】

郷原

大隅総合開発期成会の要望項目にも取り上げられている、都市計画道路の「寿大通線の早期完成」について、現在事業中区間の進捗をお示し下さい。また、地元では、寿一里山交差点から南側の未整備区間の事業化への期待と関心があります。この区間は、寿小学校の通学路ですが、歩道がなく現在事業中の区間と同様に大変危険な状況です。また、排水路と交差する箇所でも冠水がたびたび発生し、この課題解決も含めた事業化の検討が必要ではないかと考えております。

(寿大通り線)

丁目交差点付近までの560mの区間について整備を進めている。昨年度一定区間の用地買収を終え、寿交番付近から約180m間の工事に着手し、引き続き、残る用地買収を進め、工事を推進します。寿一里山交差点から南側の未整備区間は交通量が多く、通学路に指定されているものの、道路幅が狭く歩道がない状況で、また豪雨時には冠水による通行止めが発生する等、整備が必要であることは認識しています。当該区間は市街地部で多額の移転保障費などを伴う事から現在事業中区間の進捗状況を踏まえつつ、都市計画設定された平成7年当時からの変化等を踏まえた計画変更も含め、整備の在り方等、地元と充分協議し検討して参りたい。

土木部長

これまで寿一里山交差点付近から寿交番付近までの780m区間の整備を終え、現在、寿交番付近から札元1

郷原

国道504号鹿屋市祓川地区においては、歩道が狭く線形が悪い為、令和4年度より地元要望を踏まえバイパス計画として事業に着手されました。

(祓川バイパス)

当該区間の整備は地域住民の長年の悲願で、早期整備が望まれています。祓川バイパスの事業の進捗状況を伺います。

土木部長

国道504号は大隅地域から空港へのアクセス道路として重要な道路で、これまで百引拡幅や福山拡幅など計画的に整備を進めてきた。祓川地区の約1.1km区間は、歩道が狭く見通しが悪いカーブが連続することから、昨年度から祓川バイパスとして事業に着手した。現在測量設計を進め、本年度中に用地説明会を開催する予定であり、その後用地買収に着手する。当該区間には、通学路交通安全プログラムにおける要対策箇所も含まれており地元の方々のご協力をいただきながら早期整備に努めていく。



森山代議員と地元道路整備視察

(県道鹿屋環状線 野里地区)

郷原

県道鹿屋環状線は鹿屋市郊外を周回する環状道路ですが、このうち鹿屋市野里地区の国道 269 号から県道田淵田崎線までの区間は、自衛隊の位置する鹿屋市西部と鹿屋市南部を結ぶ重要な道路です。当該地区は農地の宅地化や市街地化に伴い朝夕の通勤・通学時の道路として利用されており、また近接する野里小学校の児童の通学路でもあります。当区間は大始良地区など鹿屋市南部地域から、国道 269 号や国道 220 号等を経由して垂水市方面へ向かう抜け道ともなっていますが、当区間のうち約 300m が狭隘な未改良道路となっています。当該区間の整備についてお示しください。

土木部長

県道鹿屋環状線 野里地区の道路拡幅について。県道鹿屋環状線は、鹿屋市街地部と市街地周辺部を結ぶ延長約 29km の生活道路であり、ご指摘の国道 269 号から県道田淵田崎線間については延長約 2km のうち約 300m が未改良という状況である。当該区間については、幅員が狭く歩道も設置されていないことから大型車の離合や歩行者の安全な通行に支障をきたしていると認識しており、現在事業化の検討を進めている。



熊本県 TSMC 整備状況視察



沖縄県 普天間基地視察

地元の皆様方の負託に信頼で応えるべく、令和6年もしっかりと頑張ってお参ります。

今後ともご指導ご鞭撻宜しくお願ひ申し上げます。

県議会議員 郷原拓男

《 略 歴 》

西原台小・第一鹿屋中・鹿屋高校 卒業
H14 大阪大学経済学部 卒業
H14 日本航空 (JAL) 入社
H21 鹿児島大学院 農学研究課修士 修了

《 県議会所属委員会 》

産業経済委員会 委員長
県議会デジタル化検討委員会 委員長

《 自民党県議団役職 》

- ・自民党鹿屋支部 支部長
- ・子供・子育て調査会 顧問
- ・畜産振興調査会 事務局長
- ・建設問題調査会 事務局長
- ・西原台小学校 PTA 会長
- ・西原台消防分団 分団員

市内各地にて『三二集会』を開催します！

県政報告は、いつでもどこへでもお伺いします。

県政に届けて参ります！
お気軽にご連絡ください。

ごうはら拓男事務所 ～ふる郷を拓く～

〒893-0057 鹿児島県鹿屋市今坂町 12403-10
電話 0994-45-7801 FAX 0994-44-6715
メールアドレス t@gouhara.net

